

① 次の新聞記事を読んで、後の問いに答えなさい。（上段の数字は行数を示しています。）

1	5	10
<p>運動部の男子学生から広がったとされる「そうっすね」「マジッスか」といった言葉遣い。社会言語学者の中村桃子さんは「ス体」と^①マイマイした。親しみと丁寧さを同時に伝えられる語法として浸透していったという（『新敬語^②「マジヤバイっす」』）。五輪スケートボードの中継で解説者がその「ス体」をさかんに使っていた。「鬼やばいっすね」「よくやり切ったっすよ」。実況アナウンサーの折目正しい話し方と比べ、ケイカイさがきわだった。</p> <p>手すりのようなレールの上をすべる精緻な技が決まると、『ピッタビタ』はめてましたね」。注目度の低かった選手^③が高得点をたたき出すと、「練習でもひとりだけ『ゴン攻め』して」。ドクトク^④の言い回しで、素人にも分かりやすくかんところを教えてくれた。</p> <p>スケボーは今大会で初めて五輪のシ^⑤ュモク^⑥となった。解説を担当した瀬尻稜さんは国内外で活躍してきた第一人者。肩ひじ張らない普段着の語り口は、ロジヨウ^⑦から始まった競技の自由さゆえだろうか。</p> <p>これまでも五輪は、アスリートたちの彩り豊かな言葉を世に残してきた。「今まで生きてきた中で一番幸世^⑧」「自分で自分をほめたい」「こけちゃいました」。それぞれに万感の表情が瞬時によみがえる。コロナ下の今回は、そこにテレビ解説も加わった。</p> <p>後世のセンモン^⑨家が「ス体」の盛衰を研究するサイ^⑩、2021年スケボー解説はどう刻まれるか。それにしても瀬尻さんの語り、競技の流れにピッタビタはまっています。大役^⑪マジお疲れさまっす。</p> <p style="text-align: right;">（2021・7・27 「天声人語」より）</p>		

問一 線部①～⑦のカタカナ部分を漢字に直しなさい。

問二 線部A～Gの漢字の読みを答えなさい。

☆（問三～問六までの⑫～⑮までは解答らんの番号です。）

問三 2行目⑧「同時」、3行目⑨「解説」、8行目⑩「担当」の熟語の成り立ちを次のア～エの中から選んで記号で答えなさい。

- ア 上と下が似た意味になっているもの。
- イ 上が主語、下が述語になっているもの。
- ウ 上が下を修飾している（詳しく説明している）もの。
- エ 下から上へ読むと意味が分かるもの。

問四 1行目⑪「運」、5行目⑫「注」の訓読みを送り仮名も含め、ひらがなで答えなさい。

問五 8行目～9行目⑬「肩ひじ張らない」の意味を次のア～エの中から選んで記号で答えなさい。

- ア えらそうにしない
- イ 大柄ではない
- ウ やさしそうでない
- エ かつこよく見えない

問六 7行目⑭「教」、13行目⑮「盛」の部首名をひらがなで答えなさい。

② 次の会話は終業式前、理科のA先生と理科が好きなBさんとの会話です。後の問いに答えなさい。

- A 先生 今日、東京^①の日の入りは、午後4時28分。1年で最も早い日ですよ。今、夕暮れの南西の空に金星^②ががやいていますのです。金星は地球のすぐ内側を回っている惑星です。
- B さん 先生、金星が太陽を一周するのはどれくらいかかるのですか？

A 先生 約7か月ですが、地球も一緒に回っているので、地球とは約1年7か月ごとに接近し、地球から金星を見ると、「最接近」から最遠方までの約9か月は、日の出前の東の空に明けの明星として見え、その逆の約9か月は、日の入り後の西の空に宵の明星として見えます。

B さん 今、先生のお話しなされたことは当たり前のように思われますが、昔は、そのようなことも分かっていなかったのですよね。いろいろと思いをはせると不思議な感じがします。地球ですてきですね。

A 先生 まだまだすてきですよ。金星のななめ左上にも明るい星、木星があります。さらに、木星と金星の間に土星もかがやいています。とてもきれいに並んでいますよ。

B さん 先生、理科室の天体望遠境で見たいです。

A 先生 好奇心の強いBさん中心に、クラスの生徒を呼んで、明日の放課後4時30分ごろから天体を見ましよう。

B さん 皆に声をかけます。ありがとうございます。明日が楽しみです。

問一 A ——線部①「京」の読み方と同じ音読みの「京」を使用して、二字熟語を一つ書きなさい。

B 文中の使われ方と違う「京」の音読みを使用して、二字熟語も一つ書きなさい。

問二 ——線部②「陽」、⑤「楽」の画数を答えなさい。（漢数字・算用数字どちらでもよい。）

問三 「最接近」の成り立ちと同じ三字熟語をア～オの中から選んで、記号で答えなさい。

ア 非常識 イ 上中下 ウ 作曲家 エ 高収入 オ 消極的

問四 ——線部③「感」の「ノ」は何画目に書きますか、数字で答えなさい。（漢数字・算用数字どちらでもよい。）

感

問五 ——線部④「好奇心」と同じ意味で用いられる四字熟語を次のア～エの中から選んで、記号で答えなさい。

ア 喜怒哀楽 イ 興味津々 ウ 無我夢中 エ 自業自得

問六 会話文中には漢字を誤って使用しているところが一か所あります。誤って使用している漢字を一字選んで、正しく直しなさい。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

けれど、その翌日、私のやる気を一気にたたき落としてしまう出来事が起こった。矢吹君が、読書感想文コンクールで賞をとったのだ。夏休みの宿題だった、読書感想文。クラスの代表として私と矢吹君が選ばれ、コンクールに出してもらった。でも、賞をとったのは矢吹君だけ。私は佳作にも入らなかった。

先生が矢吹君の感想文を読んだ。どうせたまたまだと思っていたのに、いつか使ってみたい言葉がこんな時に頭によぎる。「不覚にも」ぐときてしまった。

みんなの前に立ち、拍手されて照れている矢吹君。

私も精いっぱい笑顔でみんなと同じようにしてみようとしてみるけれど、どうにも悔しくてたまらない。毎日のように本をたくさん読んで物語を書いてきた私より、宿題のためにしか本を読まないような矢吹君の方が文章が上手だなって。

「実はこの本、古屋さんが紹介してくれたんだ。古屋さん、ありがとう。この本じゃなかったら、きつと賞なんてもらえなかったと思う。すごくおもしろいから、みんなも読んでほしい」

おまけに矢吹君は余計なことまで言うから、後からまゆりんと春乃ちゃんに矢吹君との仲を勧ぐられて大変だった。正直に、夏休みに図書館で会ったことを話したけれど。

【中略】

日曜日の午後、私が机で本を読んでいると、お姉ちゃんがやってきた。私のうちには、お姉ちゃんの部屋がない。必要ないと、数少ない部屋を私にゆずってくれたのだ。でも、うちは狭いのでお姉ちゃんの洋服類だけは私のクローゼットに入っている。

今から出かけるのか、クローゼットを開けて何枚か服を取り出し、どれを着ようかと選び始めた。

「万緒^{マヨ}、もっとがんばってよね」

いきなりお姉ちゃんが切り出す。

「なつき読んだよ、小説。安易すぎ。転校生の新キャラ作ってマミカと仲良くさせるとか。都合よすぎるにもほどがある」

私もうすうす感じていたことを、お姉ちゃんはばつさりと言った。

「もうどうすればいいかわかんなくなっちゃったんだもん」

作家を目指す者として、一言言っただけなことを言った気がしたけれど、気付いた時にはもう言葉にしまっていた。

「そこは頭使いなさいよ。これで今度はミオと親友になって、ずっと仲よく過ごしましたって話が終わるんじゃないでしょうね。こんなのアリティーがない。ありえない」

お姉ちゃんはそうとう気に食わなかつたらしい。声がいつもよりワントーン低い。

「もうどうしようもないくらい離れちゃったマミカとサオリを仲直りさせる方が、それこそありえないよ」

迷ったあげく、お姉ちゃんはモスグリーンのチエックのワンピースに決めたようだ。似合わないからスカートは一枚も持っていない私だけれど、お姉ちゃんがこのワンピースを初めて見せてくれた時は、ちょっとだけ着てみたいと思っただけ。

「じゃあ、なんで修復不可能になるくらいまで関係を悪くさせたのよ。もっと後のこと考えて書きなさいよ」

それは、クラスにいる人たちがモデルだから、とは言えなかった。

「^Aこてんばんに言われて、涙^{なみだ}がにじみそうだった。けれど、全部^Bあ星なのでお姉ちゃんを納得^{なご}させられるようなことは言い返せなかった。

「私、古屋万緒先生の一番のファンなんだからね。楽しみにしてる私みたいな読者がいるんだから、もっとしつかり書いて！」

練習として書いていた物語に、ここまで言われるとは思わなかった。

お姉ちゃんが言うのもわかる。隣^{となり}のうちの矢吹君が読書感想文で賞をとってから、^Cい^Dが出なくなっていた。だから、ここ数日は半分やけそで書いていた。とりあえず一行でも多く書くことだけを考え、ろくに後のことを考えずにストーリーを進めたのだ。

たしかに、ちょっとマミカの都合のいいように書きすぎたとは思っ。短期間に二回も転校生がクラスに来るなんて、なかなかないことだろうし。

でも、マミカにまた笑顔を取り戻すには、^E新しい風のような存在が必要だったのだ。それには、新キャラを登場させるのが一番だと思っ

た。
「応援したくなるような主人公にしてよね」

お姉ちゃんはそう言うので、ワンピースに着替え、長い髪^{かみ}を器用に編み込んでアップにまとめた。そして、これからデートだと香水を手首にひとふりして出ていった。オレンジとバナナを混ぜたような、さわやかなのが甘^{あま}ったるいかわからない匂^{にお}いがふわっと宙^{そら}を舞^まい、こっちまでただよってきた。

物語を書くのって、もっと簡単だと思っていたのにな。本当に行動はしなくてもいいものの、その一歩手前まで、登場人物たちの問題と向き合わなきゃならないなんて。そして、実際に行動したつもりで話を進めなくちゃならないんだから。

^F午後の日だまりがとても暖かく、……。

お茶でも飲もうと部屋を出ようとすると、床^{とこ}にエメラルドグリーンのバスケースが落ちていた。電車の定期券が入っている。お姉ちゃんが忘れていったんだ。

今ならまだ間に合うかもれない。

エレベーターを降りて、玄関ホールへ。すると、お姉ちゃんの後ろ姿が見えた。そしてその横には、見覚えのある横顔が。それは、隣のうちの矢吹君だった。

二人は何やら話をしている。デートって、まさか矢吹君とじゃないよね。まだ小学生の矢吹君と会うのに香水なんかつけないだろうし。たまたまここで会っただけだね。

なぜか私は柱の陰^{かげ}に隠^{かく}れて二人を観察していた。

「いつもありがとうございます」

お姉ちゃんは、矢吹君から茶色い封筒^{ふうとう}を受け取っている。

「いえいえ、まさかリンちゃんがこんなに楽しみにしてくれてるなんてね」

「先が気になって気になって。これからどうなるか、楽しみです」

いつの間にか二人は仲よくなったんだろう。や^Gり^Hと^Iりから推測すると、何度も会っているということになる。

【中略】

「これ、万緒へお手紙」

どういうことだろう。私への手紙って何だろう。お姉ちゃん、言いたいことがあるなら口で言えばいいのに。紙切れを開くと、一目でお姉ちゃんの字ではないとわかる。お世辞^{おせじ}にもきれいな言えない文字がずらりと並んでいた。

い。

音楽が言葉[※]を誘発[※]するとしても、その言葉は音楽と「コンパチブルな物」ではない。音楽とは全く別なものである。そうでなかったらどうして音楽が存在し得よう。

言葉が音楽を語れないのと同様に、音楽は言葉を語れない。音楽が「歌詞」を助け、その意味を高め、その感情をひろげる事はあり得る。だが、たとえば（思想）を音楽で語るなどという事は不可能だと思ふ。

音楽は言葉を語る必要はない。けれど私は音楽を語る事のできぬこの言葉なるものは、野蛮なものだと思っている。われわれが世界を認識する仕方にも、どこか欠けたところ、或いは誤ったところがあるのでないかという気がする。

言葉は精神と肉体を分ける。精神すなわち肉体、肉体すなわち精神という言葉をわれわれは未だ、或いは既に持ち合わせない。ところが音楽に表れている人間存在は正にその、言葉のとらえきれないものとして在る。音楽の中では在るとはつきりしているのに、言葉として、即ち考えとしては無いに等しいものは、いくらでも在る。この二十世紀においても、古い音楽が人々に迎えられゆるゆえんがそこにあると思ふ。音楽は、その発生の初めから未来的なものであり、いまだに未来的なのである。それは未だ解かれてない謎と等価なのだ。音楽は、おそらくひとつの予言なのだ。

夏、信州の山奥にいて、珍しく音楽をほとんど聴かぬ日がつづいた。そんな或る日、東京から若いフォークソングのグループが遊びにやってくる。初対面だったので、自己紹介がわりに一曲歌ってもらうことになり、せまい私の仕事部屋で、彼等四人は立ち上がり、てれくさそうな顔でギターの調子をあわせ、そして歌い始めた。

せまい部屋いっぱい、突然音楽があふれたその瞬間の印象を、私は今も忘れかねている。彼等は歌もギターも決して上手ではなかった。その声も、当世風にマイクを通さなければ商売にならぬ発声であった。それなのにその一瞬、音楽はまさしく私を圧倒したのだ。

いわば I でもあったのだろうか。

だが私は音楽に餓えていたわけではない。むしろ仕事部屋の崖下の川音や、落葉松の林の中の小鳥の声、それに日課のようによってくる烈しい夕立と雷鳴とに、音楽以上の耳の慰めを得ているつもりだったのである。

B 音楽は、それら自然の音とは最初の音から別物だった。それは思わず顔が赤らむほどがしつけないものだった。あつかましく図々しく高原の空気の中に響きわたり、私を犯した。ひとつひとつの音が、人間の肉の訴えに満ちており、トルストイがクロイツェルソナタについて言ったことを、私はまざまざと思い起こしたのである。

ベートーベンも、バッハも、そしておそらくは我々の国の音楽も、音楽のこの官能性にまず根ざしているということ、そのあたりまえの事実を、私は都会の音楽の洪水の中にいて失念していたのだった。時には人を自殺にすら追いやり、時には人をファシズムの集団ヒステリーに導く手助けさえする音楽の危険に、私は麻痺していた。

その危険が悪と結びついて悪に染まらず、その本質ではむしろ美と快楽と慰めに結びついているからこそ、音楽はますます奥深いものになるのである。

分別くさい顔をした大人たちは、クラシックとグループサウンズを区別したが、音楽のもたらすあの矛盾にみち、魅惑にみちた秩序に違いがあるうか。

音楽そのものが本来、理性への挑戦という一面を含んでいるのだ。音楽の精神性も、それを踏まえて考えることなくしては、単なる通俗的教養主義に墜ちてしまうだろう。

（ 谷川俊太郎「音楽のとびら」より ）

☆問題作成の都合上、本文を一部変更しています。

（注※）

※漠然…あいまいに。あやふやに。

※誘発…引き出すこと。

※官能性…目・鼻・耳・舌・皮膚などの感官が刺激を受け取ること。

※ファシズム…イタリアのムッソリーニが提唱した思想。

※秩序…物事を行う場合の正しい順序・道筋。

※通俗的…世間一般に喜ばれるようなさま。

問一 ——線部①「言葉というものが何でも語る事ができると思ったら大間違いだ」とありますが、筆者は、言葉とはどういうものかと思っていますか。本文中より五字で書きぬきなさい。

問二 **A**・**B**に当てはまる言葉として最も適当なものを次のア～オの中から選んで、それぞれ記号で答えなさい。

ア さて イ たとえば ウ また エ しかし オ なげなら

問三 線部②「コンパチブルなもの」とありますが、どういう意味ですか。最も適当なものを次のア～エの中から選んで、記号で答えなさい。

ア 置き換え可能なもの イ 置き換え不可能なもの
ウ 切り離し不可能なもの エ 想像可能なもの

問四 線部③「この二十世紀においても、古い音楽が人々に迎えられる」とありますが、その理由を三十字以内で答えなさい。（句読点も一字にふくみます。）

【下書き】

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

30

問五 線部④「忘れかねている」の意味として最も適当なものを次のア～エから選んで、記号で答えなさい。

ア 忘れかけている イ 忘れてしまっている
ウ 忘れられないでいる エ 忘れようとしている

問六 **I**に当てはまる最も適当な表現を前後の文脈から考え、次のア～エの中から選んで、記号で答えなさい。

ア フランス料理のテーブルマナー イ コース料理のメインディッシュ
ウ 食事のあとのデザート エ 絶食のあとの一つの果実

問七 次の文が本文の内容と一致しているものは○、誤っているものには×を書きなさい。

ア 筆者は、「思想」を音楽で語ることはできないが、音楽は「思想」を語ることができると考えている。
イ 筆者は、将来的には、音楽に表れている人間存在は、精神と肉体が一つになると考えている。
ウ 筆者は、音楽とは、理性への挑戦がなければ、単なる通俗的教養にすぎないと考えている。
エ 筆者は、圧倒されたフォークソングを音楽以上の耳の慰めだと考えている。

番 号
得 点

1

問一 ①	問二 A	問三 ⑧	問四 ⑪	問五 ⑬
⑤	E			
②	かな			
⑥	しみ			
③	F			
⑦	B			
④	せ			
	G			
	C			
	D			

2

問一 A	問三 A
B	B
問二	問四 画目
問五	問二 ②
問六 ⑤	画
画	↓

3

問三	問四	問八	問九	問十
問五	問六	問七		
60	45			

4

問七 ア	問五	問四	問一
イ	問六		問二 A
ウ			B
エ			問三
		30	

